

今から73年前1941年12月8日は、当時の日本軍が周到に準備をし、奇襲によって戦争を開始した日です。日本では第二次世界大戦を『太平洋戦争』と呼んでいますが、この戦争は昭和6年9月の満州侵略にはじまる15年間の連続した戦争でもありました。この15年間の戦争で日本は300万人の人命を失い、1000万人が家を焼かれました。日本軍に侵略されたアジア諸国民の被害は一層大きく、中国だけでも1000万人の命が失われたとされています。

この日、私は上海第一国民学校の2年生でした。学校は4階建てビルで水洗トイレにスチーム暖房があり、プールもありました。二宮金次郎と馬上ゆたかな楠正成の銅像もあるといった、上海市日本人学校10校のうち昭和初期に建築、最初に開校した小学校でした。25年前に訪問した時は、現存し中学校として立派に使われていました。

その開戦当日、夜明け前に家中の者が、使用人や女中も同居していましたから、皆3階ベランダに駆け上がって、空遠くを見ていました。子供ながらに一緒になって、私もはるか空遠くに輝く花火大会のような空を見たような記憶があります。

後年、聞かされ調べたところによりますと、黄浦江の彼方に閃光あり、赤黄オレンジ色の閃光弾が次々に発射され、真昼の明るさと成り、そこはイギリスの砲艦ペテレル号がありました。日本海軍の旗艦出雲からの一斉射撃を受けて、あっという間に撃沈された模様だったのです。

この時、海軍は特別軍使を敵艦に派遣し、最初のアメリカ艦との交渉は無事成立しましたが、次のイギリス艦とは交渉が難航決裂をしました。軍使はこの結果報告を一刻も早く本艦へ連絡せねばならなかったのです。その方法は短銃による発火信号でした。

本艦では、発火信号今や遅しと待ち構えていましたから、この赤火信号の確認と同様に、出雲艦は即時艦砲射撃となり、ペテレル号に命中、撃沈となりました。

彼は使命が終わると、ペテレル号のタラップを駆け下りるなり、そこに繋いでいた内火艇に飛び乗り、エンジンフル回転で敵艦から離れ、腰の短銃を引き抜きました。

本来ならば、敵艦からの間隔を置くべきところを、はやる心のままに本艦に向かって信号弾を発射してしまいました。本艦からの一斉射撃でペテレル号は沈んだのですが、彼の内火艇は、このあおりをくらって濁流にのまれてしまいました。

浮かび上がることは少ないといわれるこの河で、彼は幸運にも浮かび上がり、必死の抜き手をきって平和の女神像の立つ河岸に泳ぎ着きました。タクシーは夜通し流していましたから、タクシーを拾って無事に使命を果たしたという事で武勇伝として学校で何回も聞かされたものでした。

その他、歌にも なった肉弾三勇士の銅像の立つ有名な戦跡・廟工鎮、敵前上陸激戦地の呉淞砲台跡もよく学校遠足で行きました。遠足では土を掘り起こし敵前上陸の名残の鉄砲 弾を集めては喜んでいた少年だったのですが、戦争に関する話を聞きながら戦争少年は作られて征ったのでしょうか？

1945年8月15日・終戦の日と同様に開戦のこの日も二度と戦争を繰り返さないという、不戦の誓いの日として、戦争を知らない人たちへ、その惨禍を語り伝えなくてはならないと思います。

今、この地・かけがえの無い平和な日本に生かされていて、しみじみ平和の有り難さを想うことです。

特に、今月はロータリー家族月間です、「人類皆家族の一員である」ことに思いいたしましょう。

(2005-2006年度菊地平ガバナ一月信12月号より転載)